



フィンランド航空ダブリン便（ヘルシンキ—ダブリン）が就航 極東アジアと欧州最西端を最短最速で結ぶ！ 会員：山田恒一郎／記

フィンランド航空がアジアとアイルランドを直結する最短最速の航空路を開設した。この春（2015年3月30日）、ヘルシンキ国際空港からダブリン国際空港まで3時間の航空便（週6便）が就航したことにより、東京からダブリンまでヘルシンキ乗り換え（トランジット時間35分以内）を含め、約13時間の空の旅が実現した。中国の北京、西安、韓国のソウルなどからもダブリンまで、同様に最短最速のフライトとなる。ヘルシンキ国際空港は、現在、3,500米の滑走路を3本有し、2つの空港ターミナルには、さらに拡張計画がある。各国航空会社のヘルシンキ乗り入れにも積極的だ。



フィンランド航空の機内ランチ（ビジネスクラス）

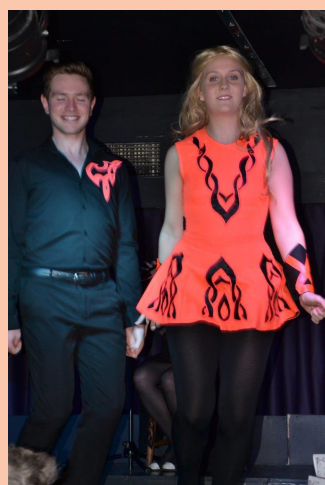
ダブリンと言えば、ギネス・ビールとジェムソン・ウィスキーの本社工場、テンプルバー（パブ街）、セルティック・ミュージックとダンス、多くのノーベル賞作家、文豪を産み育てたトリニティ・カレッジなどが観光資源として注目されてきた。そのダブリンが、いま、大きく変わった。マイクロソフト、グーグル、ヤフー、フェイスブックなどのIT企業を始め、世界の有力企業の本社が相次いでダブリン進出を決め、ビジネス関係者が頻りに訪れる情報都市へと面目を一新した。また、伝統的な農業国であるアイルランドの食材は、ナチュラルでクオリティの高い産物が多い。アイリッシュ・ビーフ、アイリッシュ・サーモン、アイリッシュ・ロブスター、ロック・オイスターなど、グルメな食材が四季を通じて供給される。ファッション関係でも、アイルランドの伝統に基づく生地、デザインを用いた、ファッショナブルな衣料品やアクセサリが、その価格を含めて消費者の熱い視線を浴びている。ダブリンは、年間900万人を超える観光客を迎え、いまや、マドリードやドバイなどと比肩する観光都市。今後、アジア各国とアイルランドの首都ダブリンを最短最速で結ぶフィンランド航空ダブリン線に期待が持たれる。



20万冊蔵書のトリニティ・カレッジ図書館。ケルトの書がある。



リフィー川に架かるア・ペニー橋



セルティック・ダンス



マリア（アイリッシュ・パフューマー）の香水店



アイリッシュ・ビーフ（上）とアイリッシュ・ロブスター（下）



テンプルバーのセルティック・ミュージシャン



フィリップ・トレーシー（アイリッシュ・デザイナー）のファッション店